

医療系図書館員の課題解決に向けた 地域発勉強会の成果と課題

－千葉県 EBM 勉強会の進化と広がり－

村上早苗¹⁾²⁾、小田伊佐子¹⁾³⁾、佐藤正恵¹⁾²⁾⁴⁾、山口直比古¹⁾²⁾⁵⁾

1)千葉県 EBM 勉強会、2)日本医学図書館協会(JMLA)正会員個人、3)東葛病院図書室、
4)千葉県済生会習志野病院図書室、5)聖隷佐倉市民病院図書室

【背景】医療系図書館員には専門的な主題知識や広範な知識が求められるが、各職能団体が開催する研修会は年数回にとどまる。特に小規模な図書室や雇用形態、地域の状況によっては研鑽の機会は限定的であり、より実務的な研修の必要性が課題である。

【方法】上記の課題解決のため、筆者らは2017年に千葉県内の医療系図書館員の有志により千葉県 EBM 勉強会を発足した。参加者は公募し、雇用形態や経験、館種に関わらず個人の立場で自由に質問や発言ができる場を目指した。各回の内容は参加者アンケートを参考に「JMLA 専門職能力開発プログラム」に沿って幹事が相談の上決定している。参加者募集は医学・病院図書館系のメーリングリストと Facebook で行い、さらに毎回、日本医学図書館協会の継続教育「JMLA-CE コース」の認定を受けている。

【結果】2019年7月までに7回開催した[表1]。会場は図書室や無料の会議室等で、座学だけではなく、少人数の実習や事前課題によるアクティブ・ラーニング、レファレンス・カンファレンス等を行ってきた。日常業務での課題解決の相談や人脈作りの場ともなっている。アンケートの満足度は高く、県内だけでなく全国から参加希望が増加したため、第6回からはオンライン会議システム Zoom を用いて遠隔参加も開始した。

【表1】千葉県 EBM 勉強会の日時・テーマ（参加者数・Web 参加）

2017/9/2	第1回:医学情報資料論と PubMed/医中誌 Web 検索中級レベル (10)
2017/11/11	第2回:PubMed 中級研修【検索演習】 (10)
2018/3/3	第3回:看護系レファレンスを究める (23)
2018/5/27	第4回:Google・Google Scholar 使いこなし 今日の検索指針～私はこう検索している 2018 ①看護編・がん編 (13)
2019/9/8	第5回:MeSH Perspective & PubMed 検索演習・目指せ! MeSH&検索マスター(13)
2019/1/19	第6回:医学論文・看護研究・Librarian が知っておくべきこと・論文の種類・ 読み方から学術支援まで、「頼れる司書」を目指そう!(23・2)
2019/7/14	第7回:緊急! PubMed はこう変わる?/6S ピラミッドとデータベース使い分け(20・4)

【考察】毎回全国から参加申込や反響があり、実務型研修のニーズは高い。またオンラインの活用は負担軽減・研修機会の格差是正に役立つ。地域発の勉強会が継続し進化するためには、事務負担の分散を図り、開催記録を残すことが重要である。